

## <GTEC>通信

# 「世界と繋がる人財」を育成するために、 発信技能を重視した指導と評価の一体化を推進

## 宮城県石巻高等学校

1923（大正12）年、旧制・宮城県石巻中学校として開校。まもなく創立100周年を迎える地域の伝統校。校訓は「真実」「自律」「友愛」で、「光輝ある伝統を踏まえ、個性の尊重を図りつつ情操豊かな知性の高い自主自立の精神に富む、健康・明朗な生徒の育成」を教育目標としている。大学進学においては、難関大学から県内の大学までそれぞれの希望進路の実現を達成し、高い進路実績を上げている。部活動では、陸上競技部やボート部など数多くの部がインターハイに出場するなど、全国的な活躍をしている。

基本情報：公立、共学、普通科

規模：1学年約240名

主な進路状況：国公立大は、岩手大11名、東北大10名、宮城教育大10名、山形大7名、福島大3名、埼玉大3名、千葉大3名、筑波大1名など93名が合格、私立大は、東北学院大102名、東北福祉大57名、慶應義塾大1名、法政大4名、明治大4名、立教大3名など416名が合格。（2020年度入試結果、過卒生を含む）



## 取り組みのポイント

- 指導との連動を重視したCAN-DOリストをもとに、各学年の授業・評価をデザイン。
- ループリックとスコアレポートにより生徒を動機づけるパフォーマンステストで発信力を育成。
- 英語科教師間で互いの授業内容を共有し、指導力を高める。

## 取り組みの背景

宮城県石巻高校は、長年、宮城県の英語教育の拠点校として、英語教育改革に取り組んできた。育てたい生徒像について先生方はこう語る。「本校が育てたいのは、使える英語を身につけ、人とつながることを楽しめる生徒です。英語でアウトプットする力を伸ばし、世界の人と繋がることを楽しんでほしいと考えました。また英語が理解できた・伝わったという実体験から、卒業してからも学び続ける生徒を育成したいと考えています」（磯部礼奈先生、初澤晋先生、根岸潤先生）

加えて、2019年度からは宮城県教育委員会の「発信型英語教育拠点校事業」の指定を受けたことをきっかけに、4技能5領域におけるバランスの良い授業内容と評価の在り方を研究してきた。

同校独自のサブテーマとして、4技能のなかでも、発信（話すこと・書くこと）の内発的動機づけを促す指導の研究、CAN-DOリストを軸にしてループリックを明示した指導と評価の一体化を行い、発信力を高める取り組みを行った。生徒の動機づけをいかに行いながら授業と評価を一体化させるか、その実践が積みあがってきている。

## CAN-DOリストを軸に、各学年の指導を構築

同校では、CAN-DOリストを作成し、それを軸にした指導を行っている。CAN-DOリスト作成にあたりまず最初に取り組んだのは、前項にあるように「育てたい生徒像」を共有したことだ。そこが一致していないとCAN-DOリストの内容の議論においても目線が合わなくなってしまうからだ。育てたい生徒像が明確になれば、そのような英語力を持った生徒を育てるために、どのような指導を行うべきか、議論が円滑に進む。育てたい生徒像を踏まえながら、新学習指導要領の内容も読み込み、石巻高校の生徒の実情と照らし合わせながら議論を重ね、各学年、学期ごとの学習到達目標（CAN-DOリスト）を作成した（資料1）。

CAN-DOリスト作成にあたり重視したことを2年生担任の初澤先生は次のように語る。「大切にしたのは、縦のつながりです。ステップアップしていることを意識できるように、各学年の違いにはこだわりました。例えば、スピーキングでは、1年生前期の目標は『身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について』、2年生では『学校外のことや地域でのこと』などテーマも視点を広げていくように設定しています。3年生後期の目標は『社会的な話題について、複数の資料を活用して、ディベートやディスカッションを即興ですることができる』とし、話す内容や話し方についてもステップアップできるようにしました」

## 4技能統合型の授業展開の工夫

同校では、宮城県教育委員会の「発信型英語教育拠点校事業」の指定を受けたことをきっかけに4技能をバランスよく育成するため、学年で共通した授業用ワークシートを作成している（資料2）。ワークシートの特徴は、教科書の内容を学習しながら、4技能すべてを鍛える課題が設定されていることだ。ワークシート作成の狙いについては、短い授業のなかでも4技能すべての活動をどの先生にも取り入れてほしいと考え、授業案の土台となるワークシートを作成し、授業進行の目安とできるようにしている。ただ、あくまでも目安なので、細かい指導内容は各教師に任されている。

単元のテーマに基づき4技能を統合して学び、最終的には生徒が自分の考えを書いたり、話したりしてアウトプットできるような授業展開となるようなワークシートにしている。例えば、2年生のコミュニケーション英語のレッスン9（資料2）では、リスニングからスタートし、リーディング、スピーキングを行い、最終的にはライティングさせるような

ワークシートの流れにしている。

また、授業設計する際は、あえて生徒にとってよりチャレンジングなものから取り組ませていると初澤先生は語る。

「4技能の中でも、聞くことや話すことは生徒にとって難易度の高い活動ですが、あえてそれらを優先して取り組むことにしています。例えば、話す前に書かせる活動をしてしまうと、書いたものを読み上げるだけの活動になってしまうからです。まず、ペアで何度か会話をし、その活動を踏まえ、自分なりに話したことを修正して、書く行動につなげられればと考えています。そうした力を鍛えることで、最終的には表現力を高めてほしいです」

## パフォーマンステストのポイント

県の指定と並行して、同校独自の取り組みとして、発信（話すこと・書くこと）の内発的動機づけを促す課題設定の研究を行っている。2019年度は、「話すこと」に焦点を当てた。

中心となる取り組みは、CAN-DOリストに基づきループリックを作成し、スピーキングのパフォーマンステストを実施したことだ。評価方法については、大学の先生にも助言をもらった。

「スピーキングのパフォーマンステストを実施するにあたり、事前に生徒にループリック（資料3）を提示し、事後はループリックに基づき評価したスコアレポート（資料4）を返却するとよいとアドバイスをいただき、実践しました」（初澤先生）

ループリックを作成する際は、評価内容の妥当性、採点の信頼性、持続可能な実用性の3点を意識したという。

「例えば、信頼性を高めるために、パフォーマンステストは2人の教師が採点して、その平均点を採用するようにしました。実用性に関しては、それまで10項目程度を評価していましたが、全項目を正確に評価するためには、動画を何度も見直して評価しなければなりません。それでは、教師の負担が大きく、持続可能ではないと考え、各回3、4観点に絞って評価することにしました」（初澤先生）

また、事前にループリックを明示し、事後にスコアレポートを返却することにより、生徒の意識も変わってきたと話す。

「重みづけを明確にしたループリックを生徒に明確に示すようになって、生徒たちもわかりやすい、ということで学習しやすくなったようだ」（磯部先生）

「テスト後に、『自分はずっとよい点数がとれているのではないかと質問にきた生徒がいました。一緒に動画を見直し、観点ごとの採点について話したところ、採点に納得し、次はどのような点に注意したらよいか確認してくれました。そのように、ループリックやスコアレポートを生徒と共有しておけば、より効果的なテストの実施が可能です」（初澤先生）

## ルーブリックに基づきパフォーマンステストを実施

次に、各学年のパフォーマンステストの内容を紹介する。各学年における評価の重みづけを明確に意識することがポイントである。

### ◎ 1年生

「1年生のスピーキングの目標は、『身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合うことができる』です。そのため2回目の『コミュニケーション英語』のスピーキングテスト（資料5）では、メモを見ながらの発表に加えて、発表が終わったら、他の生徒が質問するといったことも取り入れました。伝える力を鍛えつつも、1年生の段階から即興で対応する力を育成したいと考えました」（磯部先生）

### ◎ 2年生

「『コミュニケーション英語』の授業では、教科書で様々な職業のやりがいや苦労について学びました。そこで学んだことをふまえ、パフォーマンステスト（資料6）を作成しました。ある留学生が、3つの職業の中でどの仕事を目指すべきか迷っているため、職業選択のアドバイスをするという場面を設定。私が留学生役となり3つの職業を生徒に提示し、生徒が即興でどの職業に就いたらよいかアドバイスをするという形式で行いました。CAN-DOリストを踏まえ、学習した表現を使いながら、自分の考えを発表できるかを評価しました。様々な職業のよいところを具体的に述べ、アドバイスを行う必要があるため、1年次よりも論理的に発表する力が求められます。そうした力を見ることができればと考えました」（初澤先生）

### ◎ 3年生

「3年生のスピーキングのCAN-DOリストには、『社会的な話題について、複数の資料を活用して、聞き手を説得することができるよう、意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長さのプレゼンテーションをすることができる』と設定されているので、そうした力を鍛えるテストにしたいと考えました。

本校では、教科書に加えて、全学年でオックスフォード大学出版の副教材を使用しています。この教材のよい点は、生徒たちが多様な価値観をぶつけあうようなテーマを取り扱っていることです。今回のテストでは、『成功するには何が必要か』について考えました（資料7）。こうしたテーマ設定だと生徒によって様々な考えがあるため、より多様な視点に触れながら表現を学ぶことができていると考えています」（根岸先生）

## ライティング指導のポイント

2020年度は、ライティングの指導に力を入れている。ライティングに関してもスピーキング同様、各テスト実施前にルーブリック評価を生徒にも明示し、それをふまえ採点。スコアカードとともに返却しているという。また、ライティングの課題設定にもこだわりたいと磯部先生は語る。

「ただ英語で文章を書かせるだけでは、表現力は高まりません。生徒にとって目的が明確なライティングをさせたいと考えています。例えば、隣に座っている生徒に自分のことを知ってもらうために自分の情報をまとめさせるなど、意味のある活動にすると生徒たちの集中力も高まり、熱心に取り組みます。どのような課題を設定すれば生徒の意欲が高まるのか、教師のタスク設定力についても本年度は研究しました」

授業のなかで表現する力をより鍛えていきたいと考えている。例えば、1年生の英語表現の授業では、より語彙力を高め、相手にとって理解しやすいパラグラフ構成にするための表現力を豊かにしてほしいと考え、Linking words（資料8）のプリントを作成した。これは、つなぎ言葉を使うことで、パラグラフライティングの型を身につけさせるプロセスを整理したものである。このようにスモールステップでハンドアウトをデザインしておく、英語が苦手な生徒にとってもタスクが取り組みやすくなり、教師側も生徒がどの段階で止まっているのか把握しやすくなる。

また、例を示す、ということは今年重視して行っている。（資料9）模範例を示すことで、生徒の書き出しが早く、明らかに書く質が高まっていると感じる。最初は良い文章を真似てでも書きながら上達していくという側面もあり、例示を積極的に使いながらどんどん書かせるようにすると平均レベルが明らかに上がってきたことを感じた。

ライティングにおいても、ルーブリックは測りたい力によって重みづけを行い、3観点に絞って評価を行っている。（資料9）

## 外部試験の活用

5月と12月に年間2回「GTEC」を受検している。校内のパフォーマンステストで評価してきた生徒たちが実際にどれくらい英語力が伸びているかを見ている。結果的に校内の成績で良い評価の生徒が「GTEC」でも好成績を収めている。生徒たちは結果には非常に興味を持ってみている。加えて、普段とは違い、海外の英語話者による評価でどれくらい伝わっているのか、ということがわかることも注目しているところである。

学校の指導としては、技能別に変化を見ることが、その時期に重点をおいてきた取り組みが成果が出ているかどうかとも振り返りを行っている。

## 英語科の連携と今後に向けて

各先生の授業実践を共有する場となっているのが、英語科教師全員が参加する週1回の英語科会だ。「英語科の指導が積みあがってきている背景として、チームワークが良いことも影響していると思います」（磯部先生）

「英語科会はとても風通しがよく、フランクに意見交換ができる場です。先日、私は3年生の英語表現の授業で、新しい形式でパフォーマンステストを実施したことを報告しました」（根岸先生）

根岸先生のクラスでは、これまで個人で行っていたプレゼンテーションのパフォーマンステストをグループでの実施に変更した。発表の様子は生徒にスマートフォンで撮影させ、授業後Googleクラスルームで提出させた（資料10）。そうした変更の結果、以前より大幅にテスト実施時間を短縮できた。加えて、発表の様子を動画で見直すことができるため、評価する際にも役立ったという。

「そうした実践を英語科会で報告したところ、『それはいいね、自分たちもやってみよう』という声をいただくことができました。自分も他の先生のよい指導を吸収していきたいです」（根岸先生）

また、同校では、年1回、英語科教師が互いの授業の見学しあう取り組みを実施している。気付いたことはアンケートに記入し、その内容を英語科会で共有している。フィードバックされる側が学ぶことは当然だが、見ている先生方にも多くの学びがあり、貴重な機会となっている。このように担当学年・年齢関係なく議論を行い、学年のつながりを意識した指導を行っていることが、生徒の英語力の強化につながっている。

「目標やCAN-DOリストといった大きな目標は全体で共有しながら、細かい指導のノウハウについては個々の先生の個性を生かした指導をしています。今後も、英語科教師の連携を強め、生徒の発信力を伸ばしていきたいと思います」（磯部先生）



取材させていただいた先生方 左から、根岸潤先生、磯部礼奈先生、初澤晋先生



# 【資料3】 パフォーマンステスト

## 2020 英語表現Ⅰ 第2回パフォーマンステスト



### ●目的

通常の英語の授業で培った表現のスキルが、どの程度伸びているかを測るためのパフォーマンステストです。スピーキングの能力のうち、「発表」に重きを置いて、伸長を測る機会とします。

### ●実施日程

令和2年11月9日からスタートし、1クラス2時間を使って実施する。

### ●実施方法

- (1) 教習でのスピーチ形式のテストとします。
- (2) 原稿は出題番号順とし、時間は1分以上、2分以内とします。

### ●お題

授業で書いた英作文のトピックでもある「I am (adjective) to hear(see) that」あるいは「Family / Friends」のうち**どちらか1つ**を読んで、スピーチをします。

### ●内容（以下を組み合わせて印象的なスピーチにしましょう）

**Plot: 話のすじ** (①いつ②どこで③何が起きたのか④どんな気持ちになったのか) と **Extra information: 話を興味深くする情報** を取り入れて具体的なスピーチにしましょう。

### ●評価の観点

ルーブリック (評価標準)

〈①いつ②どこで③何が起きたのかという情報により、Plot(話のすじ)が明確になっている。〉

- 9点：3つ全ての情報を取り入れている。
- 6点：3つのうち2つの情報を取り入れている。
- 3点：3つのうち1つの情報を取り入れている。

〈④どんな気持ちになったのかを感情を表す形容詞を用いて説明している。〉

- 3点：感情を表す形容詞を用いている。
- 0点：感情を表す形容詞を用いていない。

〈Extra information (具体情報) により、話が興味深いものになっている。〉

- 6点：Great!! (Extra information が複数ある。)
- 3点：OK! (Extra information がある。)
- 0点：None (Extra information が無い。)

(Attitude(態度))

- 3点 or 0点：Eye contact(Facial expression)
- 3点 or 0点：Tempo
- 3点 or 0点：Pause
- 3点 or 0点：Accuracy(Global error / Local error)

原稿を見ることはできません。代わりに、キーワード1つだけメモに書いておき、そのメモを見ることは可とします。

(いつ)	_____
(どこで)	_____
(何が)	_____
します。	_____
(気持ち)	_____

切り取って使用してください

— 発表当日、このメモシートを回収

# 【資料4】 スコアシート

## 2020 2学年 英語表現Ⅰ 第1回 パフォーマンステスト スコアレポート

### ●内容

カナダでの語学研修に来たあなたは、様々な国からの留学生に向けて自分の国や育った故郷、自分自身について英語でshow and Tellの形でプレゼンをします。友達と早く仲良くなるために、皆に興味を持って貰えるようなプレゼンテーションをしましょう。

故郷について	高校生活について	好きな映画・音楽	Visual Aid	合計
9	9	9	3	30
満点(9)	満点(9)	満点(9)	満点(3)	満点(30)

外国語表現の能力	故郷について	地理的特徴の言及	3	9
		産業的特徴の言及	3	
		歴史的特徴の言及	3	
	高校生活について	好きな教科の言及	3	9
		高校生活に関する経験や出来事について語る	3	
		学校行事、行事、行事について語る	3	
好きな映画や音楽について	ジャンル/題名の言及	3	9	
	内容についての言及	3		
	好きな理由についての言及	3		
関心・意欲・態度	Visual Aidの活用について	複数あり、正解されている	3	6
		複数あり、正解されていない	1	
		用意がない	0	

※聞いていて理解ができる英語であることが前提です。

クラス \_\_\_\_\_ 番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

## 【資料5】1年生 パフォーマンステスト（コミュニケーション英語Ⅰ）

### 2020 コミュニケーション英語Ⅰ 第2回パフォーマンステスト

- 内容: 石巻高校 Can Do List のスピーキング(インタラクティブ)の1年の目標:「身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合うことができる。」力を測ります。
- 実施日程: 11月第3週の授業2~3時間を使って実施します。
- 実施方法: (1)別室でのインタビュー形式でのテストとします。  
(2)2名一組で着席し、教師が一人一人に対して交互にそれぞれ異なる質問を数題していきます。その後トピックカードに基づいてペアで会話をさせていただきます。  
(一組目が話している間、次の組の2名は指定された場所で待機します)  
(3)質問例は以下の通りです。  
(4)一組2~3分程度を予定しています。

#### [About school]

1. How do you come to school?
2. What is your favorite subject? Why?
3. How long do you study at home?
4. How do you study?
5. Where is your favorite place in school?

#### [About your life]

1. What are you doing for fun?
2. Who are you spending time with?
3. What did you do on the weekend?
4. What do you do to reduce your stress?
5. What do you usually do after school?

#### [About people]

1. When you are in trouble, who do you ask for advice?
2. Who do you admire the most? admire\* = 尊敬する

## 【資料6】2年生 パフォーマンステスト(英語表現Ⅱ)

### 2020 2学年 英語表現Ⅱ 第2回パフォーマンステスト

●目的  
通常の英語の授業で培ったコミュニケーションスキルが、どの程度伸びているかを測るためのパフォーマンステストです。スピーキングの能力のうち、「発表」に重きを置いて、伸びを測る機会とします。

#### ●実施日程

令和2年10月最終週~11月1週目から2時間ほどで準備をし、1クラス2時間程度使って実施する。



#### ●実施方法・内容

1グループ3人(または2人)によるプレゼンテーションを行う。グループ、プレゼンテーションのトピック(1~5)、発表の順番はすべてくじで決定する。決まったトピックについて、以下の①~③を含めたいうえで、3分~4分ほどで発表を行うこととする。発表をする際、メモを見ることは可とするが原稿を読むことは禁止とする。また、各個人は少なくとも①~③のいずれかについて発表を行うこと。

#### [Topic]

1. Mobile [Electronic] Devices
2. Computer Society
3. A healthy Life
4. Eating Habits for a Better life
5. A Good Life for Everyone

#### [Points You MUST Include]

- ①Problem
- ②Data
- ③Solution (Suggestion)

#### ●評価の観点

今回は以下の3点に絞って点数化する。1の観点はグループ点、2と3の観点は個人点とし、合計で2.5点満点とする。

#### ルーブリック

##### <1. タスク達成度> 【グループ点】

- 15点: 問題点、客観的データ、解決策のすべてを明確にし、理解可能な形で述べている。(15点)  
10点: 問題点、客観的データ、解決策のうち2つについて明確にし、理解可能な形で述べている。(10点)  
5点: 問題点、客観的データ、解決策のうち1つについて明確にし、理解可能な形で述べている。(5点)

##### <2. コミュニケーションの姿勢> 【個人点】

- 5点: 自然なアイコンタクトやジェスチャーを用いている。  
3点: アイコンタクトやジェスチャーを用いる努力がある。  
1点: アイコンタクトやジェスチャーが不十分である。

##### <3. 話し方> 【個人点】

- 5点: はっきりと全体に聞こえるように話している。また適切なポーズをとっており、ベースも適切である。  
3点: 全体に聞こえるように話しているが、適切なポーズがなかったり、ベースが速すぎるか遅すぎるとある。  
1点: 声が小さく、聞き取れない。

# 【資料7】3年生 スピーキングテスト(コミュニケーション英語Ⅲ)

令和2年度第3学年 コミュニケーション英語Ⅲ 第2回パフォーマンステストについて

## 《Can-Do List》

3年 社会的な話題について、複数の資料を活用して、意見や主張、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションを即興ですることができます。

### 1. 実施形式

【時間】

あなたは英語の授業の中で、これまで学習した様々なアーマの内容をさらに深めるために、資料なども使いつながら英語でグループ/ペアメーションをすることになりました。3年間の集大成として、身に着いた英語力の全てを奮起しましょう。

【大まかな内容】

- ・3人/グループになり、5分程度のディスカッション (free talk) を行う。 ※メモなどの持ち込みは禁止。
- ・グループの3人の生徒はその場で提示し、議論するトピックも以下の中からランダムで選ぶ。

### 【実施の流れ】

- 1) グループの3人と議論するトピックを決定する。
- 2) 1分間の準備時間 (資料もここで提示する)。
- 3) トピックについて約5分間、自由に話し合う (誰から始めてもよい)。その際、以下の点を盛り込むこと。
  - ①資料の活用: グループ全体に対して、いくつかの資料が提示されるので、そのどれかに触れる。(触れる資料が他のメンバーと重複してもよいが、全く同じような形で活用した場合には評価は下がる)。
  - ②理由の詳しさ: 詳しく理由を述べて、自らの意見が他のメンバーに伝わるようにする。
  - ③質問と応答: 他のメンバーに質問をし、自らも他のメンバーからの質問に答える。

### 2. 評価基準 <5.0点満点>

1. コミュニケーションへの態度 : 1.0・5.0・1.0 <10点>
  - 5点…話し手に注意を向け、自然な相槌をするなど積極的な態度であった。
  - 10点…時々うつわいているなど、コミュニケーションを取ろうとする態度が不十分な場面があった。
  - 1点…終始うつわいているなど、コミュニケーションを取ろうとする態度が不十分であった。
2. 話幅: 10・5・1 <10点>
  - 10点…発話の途切れが少なく、コミュニケーションを妨げる語法上・文法上の誤りも少なかった。
  - 5点…発話の途切れが度々見られる、または、コミュニケーションを妨げる語法上・文法上の誤りが度々見られる。
  - 1点…発話の途切れと、コミュニケーションを妨げる語法上・文法上の誤りの両方が度々見られる。
3. 資料の活用: 1.0・5.0・1.0 <10点>
  - 10点…与えられた資料を、他のメンバーとは異なる形で活用した。
  - 5点…与えられた資料を、他のメンバーと全く同じ形で活用した。
  - 1点…資料に触れていない。
4. 理由の詳しさ: 10・5・1 <10点>
  - 10点…ある事柄に関して理由を述べた際の分量が、4文以上であった。
  - 5点…ある事柄に関して理由を述べた際の分量が、2～3文であった。
  - 1点…ある事柄に関して理由を述べた際の分量が、1文を強弱表現であった。
5. 質問と応答: 1.0・5.0・1.0 <10点>
  - 10点…他のメンバーに質問をし、かつ他メンバーからの質問に答えることができた。

# 【資料8】つなぎ言葉(1年生)

Linking words (つなぎ言葉) を使おう

Departure P56 パラグラフとは 英語の授業の仕組みを知らう ③つなぎ言葉

列挙 First (最初に) / Second (2つめに) / Third (3つめに) / Lastly, Finally (最後に)

**Task 1 Analyze a MODEL paragraph** 次のパラグラフは、英語の週課題の取り組み方の説明です。空所に列挙を表すつなぎ言葉を適切に記入しよう。

Let me explain who to do the English Weekly Homework. [TS], read the English passage on the handout. Make sure to use a timer. Also, underline the words you do not understand while you are reading. [ ], look up the words which you don't understand in the dictionary. [ ], write them on your "My Vocabularies Project" note books. Also, do not forget to work on the backside of the handout. [ ], bring it to school on Wednesday morning and study it with the model answer. I believe your English reading skill will improve with this homework.

CS

**Task 2 PLAN** 下記の表を記入し、アイデアを整理しよう。

	例	あなたのパラグラフプラン
Topic	How to do the English Weekly Homework	
Step 1	read (=underline the words)	
Step 2	look up the words in a dictionary	
Step 3	Write the words on note books	
Step 4	Bring it to school and study	

**Task 3 Write 1<sup>st</sup> draft**

.....

.....

.....

.....

.....

.....

**Task 4 Do Self Assessment & Get Peer Assessment**

	Self Assessment	Peer Assessment
Does the writer use linking words correctly?	Yes / No	Yes / No
Are the words spelled correctly?	Yes / No	Yes / No
Is there a topic sentence?	Yes / No	Yes / No
Is there a concluding sentence?	Yes / No	Yes / No
Is the concluding sentence slightly different from the topic sentence?	Yes / No	Yes / No

**Task 5 Rewrite the paragraph**

.....

.....

.....

.....

.....

.....

**Task 6 Read it to as many classmates as possible.**



# 【資料10】3年生 パフォーマンステスト(英語表現II)

## 令和2年度第3学年 英語表現II 第2回パフォーマンステストについて

### 《Can-Do List》

3年 後期	□社会的な話題について、複数の資料を活用して、聞き手を説得することができるよう、意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長きのプレゼンテーションをすることができる。
----------	--

#### 1. 実施形式

- ① 形式 Presentation
- ② トピック (以下から1つ選択)
  - (1) "English should be removed from the university entrance examinations."
  - (2) "We should require people to have a license to have a pet."
  - (3) "Text books of high school should be digitized."
- ③ 条件
  - (1) 意見の根拠を示す資料(図表)を2点明示する。
  - (2) 議歩を含める。
  - (2) Presentationの長さは3分程度とする。(150words~200words程度)

#### 2. 実施方法

##### グループでのプレゼンテーション+録画映像の提出

グループ内でプレゼンテーションを行う。その際、スマホ等の媒体で録画し、Google classroomに提出する。

回収方法については、授業時に説明をする。※録画が難しい場合は、事前に担当教員に相談すること

#### 3. 評価

評価の観点には以下の通りとする。<30点満点>

- (1) Fluency & Content (なめらかさ・表現力) <10点>
  - 10点…なめらかに、表現力豊かに続けることができた。
  - 7点…多少沈黙はあるものの、表現力豊かに続けることができた。
  - 4点…時々沈黙があり、表現力に乏しかった。
  - 1点…沈黙が長く続き、続けるのが困難だった。
- (2) Structure (論理構成) <10点>
  - 10点…Topic sentence(主張)と Supporting sentence (議歩・理由・例) がしっかりと連携がとれていた。
  - 7点…Topic sentence(主張)と Supporting sentence (議歩・理由・例) の連携がややとれてないところがあった。
  - 4点…Topic sentence(主張)と Supporting sentence (議歩・理由・例) の連携がとれてないところが目立った。
  - 1点…Topic sentence(主張)と Supporting sentence (議歩・理由・例) の連携が全くとれていなかった。
- (3) Delivery (Eye contact・Volume) <5点>
  - 5点…十分な声量で、聴衆を意識しながらできた。
  - 3点…十分にはできていなかった。(時々声が小さくなる、伏し目や他のところを見ていることが多い)
  - 1点…あまりできていなかった。(絶えず声が小さい、ほとんど伏し目や他のところを見ている)
- (4) Visual Aid <5点>
  - 5点…2点明示し、関連性も適切であった。
  - 3点…1点のみ明示し、関連性が適切であった。または、2点明示しているが関連性が低かった。
  - 1点…1点のみ明示し、関連性も低かった。